

# 図書館の障害者サービスとサピエの活用

日本図書館協会障害者サービス委員会、埼玉県立久喜図書館

佐藤聖一

## 1 障害者と図書館

### (1) 障害者は情報障害者

- ① そもそも障害者が使える形の資料が販売されていない
- ② 情報機器が使えない、使いにくい → アクセシビリティの問題
- ③ 仮によい資料や機器があっても購入できない → 経済的な問題

### (2) 障害者からの依頼がない、要求がない？

- ① 障害者は、図書館でいろいろな障害者サービス用資料を提供していることを知らない
- ② 郵送、宅配などのさまざまなサービス方法があることを知らない  
→ ただ点字・録音資料を置いても利用はない。  
知らない、来られないのが障害者

## 2 公共図書館の障害者サービスの意味

### (1) ノーマライゼーション社会の実現と、バリアフリー、ユニバーサルデザイン

### (2) 図書館の障害者サービスとは（定義と目的）

定義「図書館利用に障害のある人々へのサービス」

目的「すべての人にすべての図書館資料、サービスを提供すること」

→ 誰もが使える図書館にすること

### (3) 定義と目的から分かること

- ① 誰もが使える図書館にするのは誰の仕事か
- ② 「障害は障害者にあるのではなく、図書館のサービスにこそある」

## 3 公共図書館の障害者サービスの特徴

### (1) 対象となる利用者（障害者等）が幅広い

- ① 視覚障害者等  
(読書バリアフリー法や著作権法第37条第3項でいう「視覚障害者等」)
- ② その他の障害者
- ③ 施設入所者、入院患者、特別支援学校等
- ④ 病気やケガ等による一時的な障害状態
- ⑤ その他、何らかの理由で利用に障害のある人

### (2) 扱っている障害者サービス用資料の種類が多い

- ① 点字、音声デイジー、マルチメディアデイジー
- ② 大活字本、拡大写本

- ③ 布の絵本、触る絵本、ユニバーサル絵本
- ④ LLブック、ピクトグラム（絵文字）
- ⑤ 字幕・手話入り映像資料、音声解説付き映像資料
- ⑥ その他

(3) サービスの方法が多彩

- ① 対面朗読
- ② 点字・録音資料の郵送貸出
  - ・図書館相互、図書館と視覚障害者の間の郵送料は無料
  - ・専用郵送箱と宛名カードの利用
- ③ 一般図書資料の郵送貸出
- ④ 職員等による宅配サービス
- ⑤ 施設入所者、入院患者、学校等へのサービス
- ⑥ アクセシブルな電子書籍の配信サービス

(4) 障害者サービスの実施率が低く、サービスの質にばらつきがある

#### 4 障害者サービスに対する五つの誤り

- (1) 障害者への対象別、特別な、福祉的サービスではない
- (2) 障害者サービスの対象者は障害者だけではない
- (3) 図書館が「障害者に何ができるのか」ではなく、  
「サービス・資料がどこまで障害者に寄り添えるのか、使えるのか」
- (4) 「自館の資料をどのように利用してもらうのか」ではなく、  
「全国の資料をどのように利用者に案内、提供するのか」
- (5) 障害者への対応は全職員で行う。  
ただし、障害者サービス担当者を置かなくては正しいサービスはできない

#### 5 資料の入手方法

- (1) 購入→購入できるものは僅か
- (2) 全国的な相互貸借を活用した資料やデータの入手（後で詳述）
  - ① 点字・録音資料の図書館相互の郵送料は無料
  - ② 点字・デジータータの中にはダウンロードできるものがある
- (3) 全国的な相互貸借を支える  
二つの障害者サービス用資料データベース、検索サイト
  - ① 「サピエ図書館」 点字図書館が製作した資料の情報とそのデータを収録
  - ② 国立国会図書館「視覚障害者等用データ送信サービス」  
公共図書館・学校図書館・大学図書館・ボランティアグループ等が製作した  
資料情報と、そのデータを収録
- (4) 資料製作

## 6 サピエ図書館を活用してサービス拡大

以下、\*のついたものは会員施設（年4万円）のみができる機能

### (1) 資料を探す

- ① 検索画面を使って求める資料を探す
- ② 書名、著者名、資料の種類（点字かデジカ等）、ジャンル等で検索
- ③ 着手情報（現在製作中）が分かる
- ④ 国立国会図書館所蔵情報の一部も分かる
- ⑤ \* 人気のある本、直木賞作品等が分かる
- ⑥ \* 全国録音・点字雑誌一覧を使って雑誌を探す

### (2) 製作館が分かたら貸出依頼、データの直接ダウンロード

- ① 製作館の連絡先を確認して、メールやファックス等で相互貸借依頼
- ② \* オンラインリクエストする→製作館にネット上で連絡がいく
- ③ \* コンテンツデータのあるものは直接ダウンロードして入手  
（特にデジカ雑誌はダウンロードがほとんど）

### (3) こんなこともできる

- ① 電話で、職員が資料検索画面を見ながら読書案内
- ② 特定ジャンルや作家の資料リストを作成できる→リスト貸し
- ③ 特定分野の目録（捕物帳、推理小説等）をいくつかの媒体で製作して提供
- ④ 希望する雑誌を定期配信（一部の再生機で可能）
- ⑤ 利用者のSDカードに、希望するものを多数複製して提供

## 【公共図書館の障害者サービスを学ぶための参考資料】

- 1 「1からわかる図書館の障害者サービス 誰もが使える図書館を目指して」  
佐藤聖一 学文社 2015年3月
- 2 JLA 図書館実践シリーズ 37上・38下「図書館利用に障害のある人々へのサービス  
補訂版」日本図書館協会障害者サービス委員会編  
2021年11月（印刷版）、2022年6月（アクセシブルな電子書籍版＝EPUB形式）
- 3 JLA 図書館実践シリーズ 26「障害者サービスと著作権法第2版」  
日本図書館協会障害者サービス委員会・著作権委員会共編  
2021年1月（印刷版）、2021年5月（アクセシブルな電子書籍版＝EPUB形式）